

## LGBT 当事者さんの声

私は 30 代後半のゲイ（男性同性愛者）です。信頼できる一部の人以外には、ゲイであることを隠しています。なぜなら、ゲイだとバレて差別されるのが怖いからです。子どもの頃から「オカマ」と罵られ、キモいと言われ続けて、自分自身の存在が何なのか、悩んで、泣きながら生きてきました。

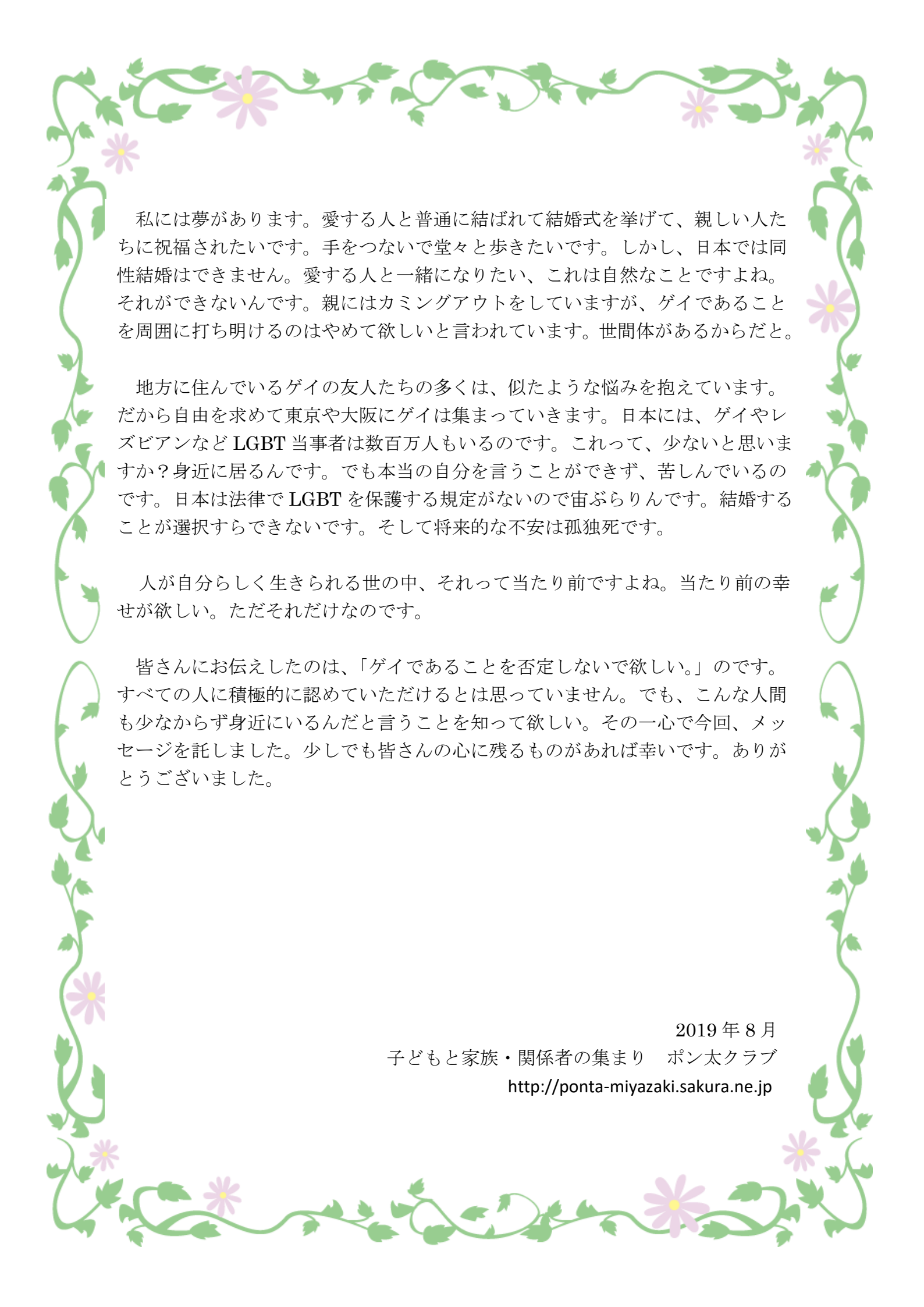
思春期の頃、同性を好きになる自分を誰にも言うことができず、辛い青春時代を過ごしました。恋愛の話は、常に嘘をつき続けなければならず、本当の自分を言えない辛さは地獄です。当時はオカマやニューハーフといった言葉がマスコミやバラエティ番組で面白おかしく取り上げられ、とても人には言えないと恐怖さえ覚えました。バレたらいじめられるし、馬鹿にされると常に恐怖と隣り合わせの日常で、ストレスを多く抱えていました。それは現在でも変わりません。

「自分は性同一性障害なのか？」と悩んだ時期もありましたが、私は性同一性障害ではなく、中性的だけど男性として生きていて、男性が好きなゲイなのです。ゲイや性同一性障害などを一色単に考えている人も多くいらっしゃいます。

学生時代は「男らしくならなきゃいけない！」と、部活動に打ち込み、表面上は男性らしく振る舞って生きることができましたが、本当の自分を押し殺しつつ生きたことで、精神的苦痛が限界を超え、20 代の半ばで精神科へ通いました。ゲイ男性の自殺率の高さを聞いたとき、納得しました。みんな、こんな風に病んでいくのだと。

大学時代のことですが、女性の親友に初めてカミングアウトした時、大泣きしました。彼女は私を受け入れてくれ「あんたはあんたのままでもいいんだよ。今まできつかったね。」と声をかけてくれたのに救われました。

また、恋をした男の親友にもカミングアウトをしました。これは時間をかけてゆっくりと。私は、「お前のこと、好きだったよ。来世では結婚してね。」と自分の素直な気持ちを伝えたら、「分かった。」と返事があり、その後も親友のままできています。セクシャリティではなく、私の人間性を受け入れてくれた彼には感謝しています。思いを伝えるまでに、10 年以上の時間が必要でした。それが、どれだけ重いことなのか、想像してみてください。もし、カミングアウトをしたら、これまでの関係性が崩壊してしまうかもしれないという恐怖との戦いです。しかし、自分に嘘をつきたくもない。何年も葛藤が続くのです。



私には夢があります。愛する人と普通に結ばれて結婚式を挙げて、親しい人たちに祝福されたいです。手をつないで堂々と歩きたいです。しかし、日本では同性結婚はできません。愛する人と一緒になりたい、これは自然なことですよ。それができないんです。親にはカミングアウトをしていますが、ゲイであることを周囲に打ち明けるのはやめて欲しいと言われていました。世間体があるからだ。

地方に住んでいるゲイの友人たちの多くは、似たような悩みを抱えています。だから自由を求めて東京や大阪にゲイは集まっています。日本には、ゲイやレズビアンなど **LGBT** 当事者は数百万人もいるのです。これって、少ないと思いませんか？身近に居るんです。でも本当の自分を言うことができず、苦しんでいるのです。日本は法律で **LGBT** を保護する規定がないので宙ぶらりんです。結婚することが選択すらできないです。そして将来的な不安は孤独死です。

人が自分らしく生きられる世の中、それって当たり前ですよ。当たりの幸せが欲しい。ただそれだけなのです。

皆さんにお伝えしたのは、「ゲイであることを否定しないで欲しい。」のです。すべての人に積極的に認めていただけるとは思っていません。でも、こんな人間も少なからず身近にいるんだということを知って欲しい。その一心で今回、メッセージを託しました。少しでも皆さんの心に残るものがあれば幸いです。ありがとうございました。

2019年8月  
子どもと家族・関係者の集まり ポン太クラブ  
<http://ponta-miyazaki.sakura.ne.jp>